

令和元年度学校評価

本年度の重点目標		児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた、きめ細やかな教育活動をより充実する。また、保護者及び地域への情報発信を積極的に行う。 ・防災教育の充実及び保護者と連携した防災訓練の実施 ・特別支援教育推進に係る地域におけるセンター的機能の充実 ・小学部から高等部までの12年間の系統性をもった教育活動の実践 ・本校における系統性をもったキャリア教育の充実と、保護者に対する適切な情報提供。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題	
教頭		職員の在校時間の適正化と健康障害防止	在校時間の把握と定時退校日の設定、午後8時施錠を実施する。業務改善に努める。	・各部、各校務の会議の時間、運営の工夫を始め業務の見直しを実施、定時退校日を段階的に増やしたことで、昨年度の在校時間と比較して平均月8時間短縮することができた。
小学部	基本的な生活習慣の育成	アセスメント方法及びエビデンスに基づいた指導方法の検討	インフォーマルなアセスメント方法に基づいて指導目標を設定し、客観的な根拠のある指導の手だてを考える。	・自立活動の研究の機会を有効活用して、実態把握や支援方法について学年で理解を深めた。次年度はアセスメントシートを用いて精度を高めたい。 ・行動の見方や、環境整備について部会で共通理解を図った。各教員が児童の実態に応じて、教室や学習環境の調整を行った。次年度は本校で作成したアセスメントとリンクした環境調整を行っていききたい。
	行事の精選	キャリア教育の視点からの校外学習の検討	遠足、社会見学、宿泊学習、修学旅行を含めた、校外学習のモデル案を作成する。	・小学部低学年、中学年、高学年ごとに設定したねらいに沿って、宿泊学習や修学旅行を含めた校外学習を実施した。高等部卒業後を見据えた小学部の各段階でのキャリア教育のねらいを明確化することが課題である。
	安全管理	けがや感染症等の予防	ヒヤリハット事例を共有し、予防的対応を組織的に行う。	・けがで病院を受診するケースがあった。安全管理と注意義務について部会で再確認した。児童の気持ちが高不安定になったときの対応と予防的体制について各学年で検討し、実践することができた。
中学部	キャリア教育の推進	生徒の将来の生活を見据え、主体的に学べる授業作り	新学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、年間指導計画を立案し、実施する。	・今年度学校全体で「キャリア教育推進計画」を策定し、12年間を見通した計画を作成してきた。中学部においては、作業学習の授業を中心に、みんなとともに働くことや実際に製品を頒布する活動を通して、働くことの意義や働くことの喜びを感じ取れるような授業を計画し実践した。次年度は作業学習に位置づけた校外での実習を2度予定しており、生徒たちの職業観や勤労観をより高められるようにしていきたい。
	安全指導	自らの危険を察知したり回避したりする力の育成	日常生活の中で起こりうる危険について、具体的な場面を提示し、意識の向上を図る。	・昨年までの体育館での模擬交差点を使った指導に加え、本年度は個人個人の目標をしっかりと把握し、校外で実際の横断歩道を使って指導を行うグループを設定した。自力通学や泊を伴う行事、校外学習の際に生かすことができた。
	行事の精選	行事についての検討	学校として取り組むべき行事についての検討を、他部とも調整しながら行う。	・今年度は第2学年において野外学習を新設した。今年度の反省を踏まえ、校外行事の系統性や目標や内容を再度精査し、次年度の計画に生かしていく予定である。また、次年度に向けて、キャリア教育全体計画の趣旨を鑑み、各学年で実施している校外学習についても、目標や内容の見直しを行っていききたい。
高等部	キャリア教育の推進	自らの将来を考え、具現化に向けての力の育成	校外学習や就労体験を設定し、社会の実際のある場を見学したり経験したりする機会を設ける。	・事業所への社会見学や校外学習、学校近隣の事業所への就労体験、外部講師や卒業生を招いた講話を実施した。これらの活動を通して、「将来、こういう仕事に就きたい」という意欲、実際の事業所での作業において感じた緊張感や達成感、身近な卒業生の姿を見て今やるべき課題を考えるなど、一人一人が自分の将来に向けて意識を高めることができた。 ・次年度から実施するデュアル実習に向けて、具体的な検討を進めた。生徒自身が自分の適性や課題が克

				服できるよう学習の場を整え、本人、家庭、学校が連携したキャリア教育を進めていきたい。
	実践力の育成	社会生活におけるマナーへの意識の向上	挨拶や身だしなみに対する啓発活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員や学級委員が中心となり、定期的に挨拶運動を行った。教室の出入り口に入室の際のマナーを掲示したり、その場で具体的な言葉での復唱を促したりするなど、場面に応じた所作を具体的に伝えた。言葉や所作が定着しつつある。</li> <li>一般化（校内でできることを校外や日常生活場面でも実践できる）に向けて、さらなる意識の向上を目指したい。</li> </ul>
	防災教育の充実	防災に対する意識の向上と対応力の育成	避難訓練を積むとともに、防災についての学習を取り上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を計画どおり実施し、落ち着いて避難することができた。</li> <li>野外活動での非常食体験や県の事業を活用した土のう作り体験を実施した。非常食の種類や調理法を調べたり、実際に味わう経験をしたりしたことで、災害時の生活について学んだ。また、自然災害の怖さや有事の時の対応、減災に向けての対応について学び、自分自身ができうることについて考える機会となった。</li> </ul>
総務	保護者への情報提供	P T A と連携した研修会や施設見学会の実施	P T A と連携し、保護者のニーズに応じた防災やキャリア教育に関する研修会や施設見学会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A 各種委員会や委員長と連携し、給食試食会やバザーだけでなく、新たに施設等見学会を計画し、多くの保護者に参加を促すことができた。</li> <li>P T A だよりでは、各事業の取組を写真等交えて報告するとともに、余暇活動やアプリの紹介など保護者に有用な情報を提供してすることができた。</li> <li>書面だけでなく、メール配信も有効に活用し、P T A の活動について周知を図っていく。</li> </ul>
教務	教育課程	教育課程の検討、実施	学習指導年間計画と学習指導要領をもとに、各教科の段階ごと（小から高までの7段階）の内容や目的を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会の年間実施計画を立て、各教科部会におけるファシリテーターの教務部職員と、教科主任とが中心となって進めた。教務部会において、事前に進め方を確認し、教科部会の様子を教務部会に持ち帰るようにすることで、実施計画で目標としていた段階まで、円滑に話し合いや作業等が進められた。</li> <li>各部の教育課程については、過去2年間の状況と新学習指導要領を踏まえて、更に本校の目指す教育にとって、よりよいものとなるように検討ができた。各部間のつながりを調整していく部分については次年度も引き続き検討が必要である。</li> </ul>
教育情報	情報発信	ホームページ内容の充実	日々の教育活動や行事の様子を発信する。学校の魅力が伝わるように内容を検討し更新する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部の授業の様子を月1回程度、また、職員研修の様子や学校行事の様子を行事や研修ごとに更新することができた。写真を交え、内容が伝わりやすいように工夫し、保護者や地域の方が見たときに親しみやすいレイアウトになるよう心がけた。今後、部活動や自立活動等、もちのき特別支援学校の活動をより知っていただけるよう、さらに内容を充実させていきたい。</li> </ul>
研修	校内研修	校内研修の充実	日々の教育の中でニーズの高い内容の研修を計画し、教員の指導力向上及び専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期の校内研修では、事前に教員に対してアンケートを取ることで、現在のニーズにあった内容を設定することができた。他の校務分掌にも協力いただき進路に関する施設の見学や情報機器を使った教材作りに役立つ内容、自立活動や生徒の障害理解に関することなど、選択できるようにし、多くの参加が見られた。</li> <li>校内研修では、自立活動について考えるシートを活用し、事例対象生徒での実践を行うことで、より専門性を高めることができた。日々の生徒への支援に繋がる研修の場を用意し、内容の充実を図りたい。</li> </ul>

生活指導	安全指導  いじめの予防と対応	防災計画、防災訓練の充実  校内体制の強化	地震、火災を想定した避難訓練や引き渡し訓練の実施  児童生徒・職員に対していじめ防止についての意識の向上を図るとともに、校内の支援体制を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月までの予定していた防火防災訓練を実施した。今年度、初めて実施した引き渡し訓練の保護者アンケートでは、「おおむね良い」との回答が72%であった。今後も安全でスピーディに避難ができる体制を検討していきたい。</li> <li>職員へのいじめの定義の周知及び児童生徒へのいじめについての理解を図った。いじめに関するアンケートや聞き取りでは、いじめを認知することはなかった。今後も児童生徒の様子を観察し、異常を感じたら迅速に対応したい。</li> </ul>
進路指導	情報提供	部、学年等の段階を踏まえた具体的な進路情報の提供	現職研修・進路説明会・進路たよりの内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は中学部進路説明会を各学年で実施し、学年ごとのニーズに合わせた内容で実施できた。高等部については講師を招いて年金についての話をいただいた。今後は、他学年でも外部講師の話が聞ける機会を増やしたい。進路だよりについては、保護者のニーズに合わせて内容を充実させ、見やすいレイアウトを意識した。</li> <li>職員への情報提供では、研修部と協力し、施設、企業見学を夏季研修という形で行うことができた。次年度は、講師を招いての進路情報の提供も検討していきたい。</li> </ul>
保健体育	情報提供	保護者への情報提供の充実	保健便りの充実・最新の保健情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健便りの発行部数を増やし、健康診断時期と夏季休業前に特別号を発行した。特別号の内容としては、健康診断の意義・目的を解説したもの、本校の健康課題である肥満対策に焦点をあてたものとした。特別号については、個別懇談の際の肥満指導等で活用し、肥満児童生徒の保護者の意識を生活習慣の改善に向けることができたケースもあった。今後は、保健便りを資料として活用し、個別の健康課題について、保護者への助言を行う機会を増やしていきたい。</li> </ul>
相談支援	地域支援  自立活動	センター的機能の充実  自立活動の指導の充実	相談活動及び、地域の教員対象の研修会の実施  自立活動の指導の手順についての周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問校へのアンケートから相談活動への理解は得られており、継続支援の要望があることがわかった。よつば相談の活用と連携を進めていきたい。</li> <li>実施した研修会への意見をもとに、来年度も地域と本校の職員が共に学ぶ研修を計画している。</li> <li>自立活動の相談や助言、情報提供を行った。校内研究と連携し、理解が深まってきたが、未だ疑問や不明な点もある。来年度は実践をもとに作成している手引きを活用して自立活動の充実を図っていく。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体として「児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育を充実することについて」をテーマに新学習指導要領の趣旨を見据えて学習指導年間計画を立てて、小学部から高等部までの12年間の系統性をもったキャリア教育の充実と実践を行った。</li> <li>防災教育の充実や保護者と連携した防災訓練の実施では、今年度全校体制で、大規模災害時の引き渡し訓練、高等部で県事業の土のう体験活動を実施した。保護者を対象として行った「本校教育へのアンケート」の回答の検証から一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の実践や防災訓練の取組や保健関係に関する取り組みについては、昨年度に比較しても大幅に伸び8割ほどの理解をいただいていることから、各部、各校務の取組に効果が出ていると思われる。その一方で、ホームページの情報や進路情報活用については、昨年度に比較して微増となり、まだ十分でなかった面が推測される。今後とも保護者会、説明会等を通じて保護者の必要としている情報について再確認し、充実していきたい。</li> <li>職員の資質向上に向けて校内研究においては、研修部と相談支援部が連携して校内研究で自立活動について授業実践等を実施して専門性を高めている。</li> <li>職員の在校時間と健康障害防止については、各部、各校務で業務内容、会議時間等の見直しやペーパーレス会議の導入等に取り組んだ。そのためか毎月の在校時間の短縮につながった。引き続き、業務の改善を推進していきたい。</li> </ul>			